

浅川中学校熱中症対策<確認>

本校においては、体育授業、部活動をはじめとする教育活動全般において、熱中症予防運動指針に基づき天候・気温、活動内容・場所等の状況により、無理に活動せず自粛するなどの適切な判断を行う。しかし、教科、部活動の状況を踏まえて生徒の活動を保障するために安全面に十分配慮しながら指導を行う。

※熱中症予防運動指針「熱中症を予防しよう(日本スポーツ振興センター)」から

- ・WBGT31以上：運動は原則中止
- ・WBGT28以上：嚴重警戒(激しい運動は中止)
- ・WBGT25以上：警戒(積極的に休息)
- ・WBGT21以上：注意(積極的に水分補給)

※それほど高くない気温(25~30℃)でも湿度が高い場合に多発する傾向があるため、教職員は、活動時の環境把握をする。

◎WBGT31以上となった場合は原則中止

<教員、顧問が活動場所につける場合に限り>

- ① 一旦活動を中止。
- ② 暑さを防げる場所に待機。
- ③ 体調確認、水分補給を行う。
- ④ WBGTを測り、20分おきの休憩を取りながら体調面に負担のない活動を行う。

○WBGT28以上の場合も上記WBGT31以上に準じて活動を行う

≪熱中症対策注意事項≫八王子市教育委員会より

○生徒が自ら体調管理等を行うことができるよう、生徒への熱中症防止に関する指導の徹底を図る

- ・暑い日には帽子等により日差しを遮ること、通気性・透湿性の悪い服装等を避けること。(運動時のマスク脱着)
- ・運動するときはその前後も含めて適切に水分を補給し休憩をとること。生徒自身でもよく体調を確認し、不調が感じられる場合には、ためらうことなく申し出ること。
- ・運動等を行った際は、気象状況も踏まえつつ、十分にクールダウンするなど、体調を整えたうえでその後の活動(登下校を含む)を行うこと。
- ・登校前には、しっかりと朝食をとり、体調を整える。(保護者に生徒の体調管理の協力をお願いする。)
- ・下校前に水筒の中身を確認させ、水筒の中身がない場合には、学校の水道水等を入れるなど、下校中に水分補給できる環境を整えること。また、水筒のない場合は、学校で水分補給を行ってから下校すること。
- ・下校時に、喉の渴きを感じた場合には周りの安全に注意し、速やかに休憩し、水分補給を行うこと。また、体調が悪くなった場合には、近くの大人に助けを求めること。

○活動する場合においては、活動量・内容・時間・場所等を変更するなど柔軟に対応するとともに、水分補給や休憩を励行し、適切に対策を講じる

※活動時には、休憩と水分補給をこまめに行うなど予防策(激しい運動では、休憩は30分に1回はとることが望ましい)を講じ、担当教職員は、生徒の健康観察を活動前から終了まで行う。

※生徒が心身に不調を感じたら申し出て休むよう習慣付け、無理をさせないようにする。

※教員は気象情報を確認するとともに、天候の急変等の場合には、ためらうことなく計画の変更・中止等の適切な措置を講じること。児童・生徒へは厚い黒雲が頭上に上がった際には、雷雲の接近を意識し、早めに安全な場所に避難する等指導すること。

≪夏季休業中の部活動≫

◎生徒、保護者による体調確認カードを活動前に顧問に提出させる。顧問は生徒の体調面に十分配慮して指導を行う。特に公式戦、対外試合等の場合には予防運動指針による中止の判断も難しいが、移動も含め注意すること。